



猛暑の作業の体験取材では
水をがぶ飲みした
今年も猛暑に見舞われた
県内。日々の暮らしの中で
も熱い思いの人たちの姿や
暮らしが垣間見える。移り
ゆく季節に思いをはせながら、各地やゆかりの人の夏
模様を歩いた。

動画は中国新聞
デジタルで

①炎天下の墓地で草刈りに励む玉浜さん。額から汗がこぼれ落ちる(画像の一部を修整しています)

②卸売市場でごみを分別するシルバーセンター会員

提供するため設けられた。
組織だが、いまは逆に仕事の依頼があつても働き手を確保できず断ることも多い。

お年寄りの働く現場にも
墓掃除と並び、市地方卸
市場の清掃もハードな仕
事だと聞き志願した。人手
不足で6月末から1人減の
5人で依頼を受けている。

女性3人と作業

お邪魔させてもらった持

ち場は70代の女性3人との
作業。石原広子さん(70)か
ら「一口に清掃と言うけれ

「働き方改革」が叫ばれ

る中、ともすれば楽な方に
流れ、上司にも怒られたく
ないゆとり世代のわが身。
この夏、元気なシルバーさ
んと汗を流し、少し目が覚
めた自分を感じた。

(文・坂本顕、写真・山下悟史)

働く喜び 汗して感じる墓・トイレ掃除 心込め

お盆を間近に控えた8月上旬のある日、岩国市の寺の墓地で高齢男性が鎌を手に草刈りに励む。ぎらぎらと照りつける日差しに顔かす玉浜健一さん(76)は岩市シルバーセンターの

汗が滴り落ちる。「年々暑くなるのでこたえるね」。タオルで額を拭きながら話を草刈りに励む。ぎらぎらと照りつける日差しに顔かす玉浜健一さん(76)は岩市シルバーセンターの

夏模様^(上)

岩柳・周南

会員だ。会員になつて16年になる。好景気を背景に人手不足が深刻な企業が定年延長で

社員を引き留める動きが相次ぐ。影響をもろに受けるのがシルバーセンターだ。高齢化で世の中のお年寄りは増えているはずなのに同センターの会員615

人は10年前に比べ約40%減少した。一方、会員の平均年齢はこの10年で68・8歳から73・7歳に上昇している。

シルバーセンターはもともとお年寄りに働く場を

押し寄せる人手不足の波。

仕事を手伝いながら実態に触れたいと紹介してもらつたのが墓掃除だ。

同寺内と同市横山の計10

区画の墓地の掃除はもともと玉浜さんが1人で請け負う仕事だった。午前8時から正午まで玉浜さんと2人で黙々と草を刈り、熊手で落ち葉を拾い集めた。2

日間の作業を終えた時に

「みんながお参りに来るのだから、きれいにしてあげたいよね」と話す玉浜さん

の笑顔に疲れが癒やされ

だから、きれいにしてあげたいよね」と話す玉浜さん

が待つている。午前8時から午後4時まで。途中で昼休憩と水分補給を挟みながらみつちりと仕事が続

く。

シルバーセンターの会員の時給の平均額は約850円と高いわけではない。だが、若いときは写真館を営んだ石原さんは「体が元気なうちは動かない」と一線を退いたのに仕事をもう一回始めたのに仕事があった。今年も猛暑に見舞われた県内。日々の暮らしの中でも熱い思いの人たちの姿や暮らしが垣間見える。移りゆく季節に思いをはせながら、各地やゆかりの人の夏模様を歩いた。

ど甘いもんじゃないよ」と

氣合を入れられた。

歩いてごみ拾いをしながら

全11カ所のトイレ掃除。モ

ップを使う時に「水を拭き切れていないよ」と石原さ

んに怒られる。熱気の中、体を動かすため汗が噴き出す。秋島幸子さん(71)は

で「これで元気を補給して

いる」と笑った。午後は市

場で出たごみの分別作業

が待つている。午前8時から午後4時まで。途中で

昼休憩と水分補給を挟みながらみつちりと仕事が続

く。